



Title	本會記事
Author(s)	酒井, 全太郎
Citation	懐徳. 1937, 15, p. 87-89
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88991
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

本會記事

酒井全太郎記

中村直勝先生を中心にして一家族のやうに和氣霽々、非常に賑やかであつた。

▲十二月二十一日

北濱の料亭よしやにて有志忘年會を催す。岡山、吉田先生を初め十五名出席、午後六時開宴、即吟ありて興を添え、談笑裡に時を忘れ歳を忘る。

▲十二月二十二日

阿部野齋場にて會員桑原直子氏の葬儀あり、代表者數名會葬焼香する。

▲昭和十二年一月一日

太秦の廣隆寺に史蹟見學會を催す。一行三十名、源豐宗先生の臨地講演を拜聴し、佛像を拜觀して解散する。林間の楓樹大變きれいに紅葉してゐた。

年賀會あり。會員數名參堂、先師儒諸先生の神位を拜し、吉田、岡山兩先生に賀詞を奉る。

▲十二月十九日

季末茶話會を午後八時より小講堂にて開催す

▲三月十三日

る。吉田、武藤兩先生を初め四十五名出席、

午後六時四十五分大軌上六驛出發、奈良、二

月堂に至りて特に内陣に於て御水取修法を拜觀し、中村直勝先生の御説明を承る。修法終りて後、會員由良氏の別莊羅浮山莊にて休息、翌朝歸阪する。一行約四十名。

▲三月二十七日

午後八時より季末茶話會を開く、中村直勝先生の下手物の話などあり、出席者四十餘名あつた。

▲四月二十五日

會員有志約十名、恭仁山莊に至りて故湖南内藤先生の靈位に參拜する。

▲四月二十九日

北攝の多田神社に參拜、中村直勝先生の臨地講演、寶物等を觀聽したる後、銅の採掘の舊蹟など踏査して解散する。會員五十餘名參加

した。

▲五月三十日

高尾、神護寺にて源豐宗先生の臨地講演拜聽後、同先生の御指導にて神護寺及び槇尾、西明寺、拇尾、高山寺の佛像及び建築を順覽して和氣清麿、弘法大師、文覺上人、明惠上人等、此の地に緣故の人々を偲ぶ。參加せし會員約五十名、歸途京都きくやにて晚餐を共にして解散する。

▲六月十四日

會員浦山榮次郎氏の葬儀あり、代表者數名弔問する。

▲六月二十六日

午後八時より季末茶話會を開く、出席會員四十餘名、中村先生の紙の話など承り、餘興に

詩吟などありて盛會であつた。尙席上、吉田先生より三宅石菴、井上赤水等當地先賢の遺文事蹟蒐集事業に就き援助を求めらる。

▲八月十四日

高野山に登りて一泊の計畫は、支那事變の爲め中止する。

編輯を終へて

山本檜信記

日支の戦雲愈急を告ぐるに至り、出征軍人を送る歡呼の聲は巷に満ち、我が勇猛果敢なる將兵は、大陸の曠野に身命を抛つて戦闘してゐる。一旦刀を抜いた以上敵を殲滅して抗日意識を挫折喪失せしめ、以て支那四億の民衆に、神國日

本の有難味を徹底せしめねばならぬ。放蕩息子
を打ち懲ずのは親の大慈悲である。斷じて行へ
ば鬼神もこれを避け、正義の利劍を振り翳す王
師の嚮ふところ敵はない。されど熱し易く冷め
易きは私の弊、油斷は大敵である。難關突破に
て、上下一致、堅忍持久の精神を以て邁進せね
ばならぬ。今や我が國民は協同一致、君國の爲
に喜び勇んで生命がけの御奉公を抽んで居る。
歐亞を席卷して天下に君臨せし支那民族の氣
宇、今、何處にありや。朝には英に媚び、夕に
は蘇に援を求むる卑屈根性を停止せよ。我が日
本國民の根本的心情は何であるか、亂脈施こす
處なき支那を救済して、王道樂土たらしむるを
念願する以外他意なきことを眞に能く反省し、
而して統一覺醒せられたる支那民衆の國家觀念